

# 「特許行政年次報告書2021年版」について

特許庁総務部企画調査課企画班

調査係長 杉田 隼一

特許庁は、2021年7月14日に、「特許行政年次報告書2021年版」（以下「本報告書」）を公表しました。そこで、本稿では、まずはじめにⅠ. 本報告書の主要構成等、次に、Ⅱ. 冒頭特集『人とテクノロジーが創る真の豊かさ - コロナ禍の向こうにある“ニューノーマル”を目指して -』の概要、最後にⅢ. 知的財産をめぐる動向の概要について御紹介します。

## Ⅰ. 「特許行政年次報告書2021年版」について

### 1. 概 要

「特許行政年次報告書」とは、知的財産制度に関心を持ち理解を深めていただくために、知的財産をめぐる国内外の動向と特許庁における取組について取りまとめたものです。第1部では、国内外の出願・登録状況や審査・審判の現状等から、新型コロナウイルスが知財統計に及ぼした影響を知ることができます。第2部では、特許庁の最新の取組として、手続の救済措置、オンライン面接の推進、行政のデジタル化の他、特許庁の中長期的課題を議論した「基本問題小委員会」などについて紹介しております。第3部では、コロナ禍において国際連携を進める各国の知的財産制度の動向や、グローバルな知的財産環境の整備に向けた取組を紹介しています。その他にも、口頭審理期日における当事者等の出頭のオンライン化やAI・IoT技術の時代にふさわしい特許制度の検討など、話題性のあるテーマを中心に取り上げたコラムを掲載しています。また、別冊の統計・資料編では、本報告書中の図表等の基礎となる統計情報を含め、知的財産に関する各種統計・資料を紹介しています。

### 【「特許行政年次報告書2021年版」の主要構成】

冒頭特集 人とテクノロジーが創る真の豊かさ - コロナ禍の向こうにある“ニューノーマル”を目指して -

#### 第1部 知的財産をめぐる動向

- 第1章 国内外の出願・登録状況と審査・審判の現状
- 第2章 企業等における知的財産活動
- 第3章 中小企業・地域における知的財産活動
- 第4章 大学等における知的財産活動
- 第5章 分野別に見た国内外の出願動向

#### 第2部 特許庁における取組

- 第1章 特許における取組
- 第2章 意匠における取組
- 第3章 商標における取組
- 第4章 審判における取組

- 第5章 特許庁におけるデザイン経営の取組
- 第6章 情報システムにおける取組
- 第7章 多様なユーザーへの支援・施策
- 第8章 人材育成に向けた支援・施策
- 第9章 産業財産権制度の見直しについての取組
- 第3部 国際的な動向と特許庁の取組
  - 第1章 国際的な知的財産制度の動向
  - 第2章 グローバルな知的財産環境の整備に向けて

## 2. 表紙について

本年の報告書では、“ニューノーマル（次の当たり前）”を創る人々に焦点をあてた冒頭特集を組むとともに、本特集と関連した表紙としました。

### 【「特許行政年次報告書2021年版」の表紙デザイン】



表紙写真提供：（右上） atama plus株式会社  
 （左中） GROOVE X株式会社  
 （右下） 株式会社 ZMP

## Ⅱ. 冒頭特集 人とテクノロジーが創る

真の豊かさ - コロナ禍の向こうにある“ニューノーマル”を目指して - 新型コロナウイルス感染症が拡大すると共に世界経済が一時的に停滞した一方で、デジタル化が一層加速し、感染症対策などの社会ニーズが大きく変化しました。そして、それに伴い新たなビジネス機会が生まれ、イノベーションを支える知的財産の重要性はこれまで以上に高まりつつあります。これに対し、特許庁においても、適切な産業財産権の付与を通じてイノベーション創出を促すために、様々な取組を検討し、実施しています。

冒頭特集では、私たちの生活様式が大きく変化する中で新たに躍進する最新技術を取り上げています。本特集では、“ニューノーマル（次の当たり前）”を創る人々に焦点を当て、心の癒しを担う家族型ロボット、AIと人が協調する教育を実現するAI学習システム、人と共生し、物流の